

2022年度保護者用児童発達支援自己評価表

事業所名 れいんぼう

(児童数) 11

(配布数) 10

(回収数) 10

(割合) 100%

※ 兄弟姉妹は1家庭につき1部配布

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか。	9	1				・どちらともいえないの回答がありましたので活動スペースは法人内の設備を使用して活動内容その日の保育に合わせて考えて活用している事を説明し納得して頂きました。
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか。	10					
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか。	9			1		・わからないの回答がありましたので、それぞれの設備など情報伝達を行う為、わかりやすく説明を行いました。要望があれば、個別に対応する事も伝え、納得して頂きました。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	10					
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が、客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか。	10					
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から、子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10					

		チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
適切な支援の提供	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行なわれているか。	10					
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか。	10					
保護者への説明等	⑨	運営規定、利用者負担等について、丁寧な説明がなされたか。	10					
	⑩	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか。	10					
	⑪	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニングⅣ等)が行なわれているか。	8	2				・どちらともいえないの回答がありましたので相談等があった場合はその都度、面談や電話連絡、連絡帳を使用し事業所内で対応できる範囲で対応させて頂く事を再度わかりやすく説明し、納得して頂きました。
	⑫	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解が出来ているか。	10					
	⑬	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行なわれているか。	10					
	⑭	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか。	10					
	⑮	子どもや保護者との意思の疎通や、情報伝達のための配慮がなされているか。	10					

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
保護者への説明等	⑯	定期的 ^{ていきてき} に会報 ^{かいほう} やホームページ ^{など} 等 で、活動概要 ^{かつどうがいよう} や行事予定 ^{ぎょうじよてい} 、連絡 ^{れんらく} 体制 ^{たいせい} 等の情報 ^{じょうほう} や、業務 ^{ぎょうむ} に対する ^{たい} 自己評価 ^{じこひょうか} の結果 ^{けっか} を、子ども ^こ や保 護者 ^{ほごしゃ} に対して ^{たい} 発信 ^{はっしん} されているか。	10					
	⑰	個人情報 ^{こじんじょうほう} の取り扱 ^と いに十分 ^{あつか} に注 意 ^{じゅうぶん} されているか。	10					
非常時等の対応	⑱	緊急時 ^{きんきゅうじ} 対応 ^{たいおう} マニュアル ^{ほうはん} 、防犯マ ニュアル ^{かんせんしやうたいおう} 、感染症 ^{かんせんしやうたいおう} 対応 ^{たいおう} マニ ュアル ^{など} を策定 ^{さくてい} し、保護者 ^{ほごしゃ} に周知 ^{しゅうち} ・説 明 ^{せつめい} されているか。また、発生 ^{はっせい} を想 定 ^{そうてい} した訓練 ^{くんれん} が実施 ^{じっし} されているか。	10					
	⑲	非常災害 ^{ひじょうさいがい} の発生 ^{はっせい} に備え ^{そな} 、定期的 ^{ていきてき} に避難 ^{ひなん} 、救出 ^{きゅうしゅつ} 、その他 ^{たひつよう} 必要な訓 練 ^{くんれん} が行 ^{おこ} なわれているか。	10					
満足度	⑳	子ども ^こ は通所 ^{つうしょ} を楽 ^{たの} しみにしている か。	10				・土日の朝も「今日、先生 行きたい」といつも言って います。	
	㉑	事業所 ^{じぎょうしょ} の支援 ^{しえん} に満足 ^{まんぞく} している か。	10				・いつもありがとうございます。 ・子どもは先生方が大好 きだと思っています。これ からもよろしく願いま す。	

事業所における自己評価結果(公表)

事業所名 れいんぼう

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である。	3		保育室、静養室を使用し、個別・集団の活動内容に合わせてスペースを活用しています。	
	②	職員の配置数は適切である。	3		職員が遅刻・早退・有給を取る時は、本部から応援に来て頂いています。	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている。	3		椅子やロッカー、靴箱など名前のシールを貼り利用児が分かりやすいようにしています。また、地域で生活する為対象利用児が対応出来るよう階段や段差がありますが、場所に合わせて手すりなど安全に配慮した設備を行っています。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている。	3		保育室などの照明は明るく、壁紙もそれぞれの部屋で明るい雰囲気になるよう工夫しています。また、事業所内を清潔に保つ為、毎日清掃・消毒を行っています。事業所の2階には運動に取り組める十分な広さがあり体操などの運動遊びやリトミックをして体を動かす事が出来ます。その為活動内容に合わせて保育室、2階のスペースを利用して保育を行っています。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している。	3		気付いたこと等その都度報告・連絡・相談を行い、一人ひとりに合わせて支援方法を考えています。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている。	3		毎日の連絡帳等で保護者様から意見や要望をいただいた時は、内容を詳しく聞いて出来るだけ早く対応し、改善に繋げています。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者等向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している。	3		評価表を踏まえて、職員間で意見を出して話し合いを行い、事業報告書とともに事業所向け自己評価表、保護者向け評価表の結果をホームページで公開しています。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえ 改善内容または改善目標
業務改善	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている。	3		第三者委員会には、元児童相談所 所長・弁護士・精神保健福祉士に入ってもらい定期的に施設内を巡回し、評価をして意見を出して頂いています。意識を持って対応しています。	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している。	3			
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している。	3		各市町村の担当保健師から紹介して頂き、保護者様に相談、希望・要望を聞き、本人様の様子を含めて分析し、計画を作成しています。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している。	3		保護者様、各担当保健師、医師などそれぞれの専門機関と協力し、柔軟性を持ったアセスメントを行っています。	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている。	3		保護者様にアンケートにて尋ねた希望・要望を基に支援計画を作成しています。個人面談を行った際、内容について説明を行い質問・意見を尋ね、こまやかな支援内容を設定しています。	
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている。	3		個別支援計画を基に、毎月のカリキュラムを作成し、日々の保育に取り入れ支援を行っています。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている。	3		カリキュラムはチーム内で意見を出し合いながら毎月交代で作成しています。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している。	3		活動内容に偏りが無い様、また当日の利用児の様子や天候に合わせて行うように工夫しています。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している。	3		保護者様にアンケートにて尋ねた希望や要望を基に、利用児の状況に合わせて支援計画を作成しています。	
	⑰	支援開始時には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している。	3		始業時には、活動の内容に合わせて、注意する点や役割担当について打ち合わせを行い、職員間で理解できるまで話し合いを行い支援に繋げる為工夫しています。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標
適切な支援の提供	⑱	支援終了時には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している。	3		その日の活動内容を振り返り、反省点や良かった点、気付きを上げ、保護者様と職員が共有し、次回の活動の支援に繋げる為工夫しています。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている。	3		利用児の様子や支援に関する記録をできるだけ細やかにいき、柔軟性のある支援を行えるようチーム内で共有しています。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している。	3		毎月のケア会議時に、支援計画の目標・経過について確認を行い、見直しの必要があれば、保護者様に相談し、利用児の現状にあった目標を作成しています。	
関係機関や保護者との連携	㉑	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している。	3		担当者会議には、児童発達支援管理責任者が参加し、保護者様の話、利用児の様子を伝え、日々の支援に繋がられるよう、職員間に周知しています。	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている。	3		各市町村の担当保健師には、お子様の様子を伝える連絡を月一回、利用児・保護者様の様子に合わせて随時連絡を入れています。	
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている。			対象利用者なし。	
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている。			対象利用者なし。	
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。	3		保護者様の意見を聞き、同意を得て事前に利用児の様子を保育園等より見に来て頂き、様子など話しをする事を事業所から勧めています。今年度は相談支援専門員が間に入っていました。	
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。	3		保護者様の意見を聞き、同意を得て事前に利用児の様子を小学校より見に来て頂き、様子など話しをする事を事業所から勧めています。今年度は電話にて対応しました。	
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている。	3		法人内の児童発達支援センターと連携し、支援方法・保育活動内容話し合ったり、通園バスを利用したり、行事前の練習時を通して意見交換を行うようにしています。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標
関係機関や保護者との連携	⑳	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある。		3	少人数での活動を希望されている保護者様もいらっしゃる為行っていませんが、法人内の児童発達支援センターとは、通園バスを利用したり、行事前の練習時を通して交流を持つようになっています。	今年度から法人内の児童発達支援センターと一緒に保育所等との交流の機会を設けるよう検討していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により出来ませんでした、引き続き検討していきます。
	㉑	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している。	3		管理者が飯塚市のこども部会副部会長であり会議開催時には参加し好評できる内容を職員間で共有し、必要であれば保護者様にもお知らせしています。	
	㉒	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている。	3		毎日、家庭での様子を連絡帳にて知らせて頂き、相談等があった場合は、直接面談・電話や連絡帳を使用してその都度返答、対応しています。	
	㉓	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている。	3		相談等があった場合には、直接面談や電話、連絡帳を使用して事業所内で対応できる範囲内での都度対応しています。	
保護者への説明責任等	㉔	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている。	3		契約時に説明を行い、変更等があった場合にもその都度説明を行っています。質問があれば、個別に対応しています。	
	㉕	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている。	3		年に2回、個人面談を行い、支援計画とれいんぼうでの様子を伝え、家庭での様子も保護者様も伺っています。質問・相談があれば、その場で意見を出し合い、対応しています。	
	㉖	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に応じ、必要な助言と支援を行っている。	3		相談等があった場合には、直接面談や電話、連絡帳を使用してその都度対応、改善しています。	
	㉗	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している。	3		行事を行った際、保護者様同士話などが出来るよう場所と時間を設ける予定でした。	新型コロナウイルス感染症の影響により今年も保護者様参加の行事が行えませんでした。利用児と職員とで行った行事についてはDVDや写真等を各家庭にお渡しし情報を共有して頂きました。3月には保護者様参加のお別れ会を行いました。
	㉘	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している。	3		保護者様から相談があった際、またお子様の様子で気になった事などはその都度電話や連絡帳を使用したり、送迎時に直接話をして対応しています。	
	㉙	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している。	3		毎月始めに「れいんぼうだより」を発行、各家庭に配布しています。れいんぼうでの写真を載せ様子もお知らせしています。写真掲載については保護者様の同意を得ています。	
	㉚	個人情報の取扱いに十分注意している。	3		写真掲載など個人情報の取扱いについては説明を行い同意を得て書類にサインして頂いています。	
	㉛					

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標
非常時等の対応	③⑨	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている。	3		絵カードや写真カードを使用したりわかりやすくかみ砕いて説明を行う様にしています。また担当保健師にも協力して頂いています。	
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っている。	3		事業所の見学は、希望があれば随時受け付けています。	法人内での行事の際には地域住民・教育関係、児童相談所関係、他の事業所の方々に来ていただいています。が、新型コロナウイルス感染症の影響により今年も無観客で行事を行った為参加して頂く事が出来ませんでした。
	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している。	3		緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症マニュアルを保護者様にも見て頂き、毎月行う訓練を実施した際には、連絡帳に記入し訓練の内容、利用児の様子をお知らせしています。	
	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行っている。	3		火災・土砂災害・地震・水害・不審者侵入対策と様々な状況を想定し、安全に避難が出来るよう訓練を行っています。	
	④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している。	3		服薬がある場合は、服薬依頼書に必要事項を記入して頂き、確認しています。てんかんなどの発作についても、事前に様子など記入して頂き使用する際の同意書に署名・捺印して頂いています。	
	④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている。	3		給食の献立表を配布しています。現在、アレルギーのあるお子様はいませんが、事業所内で対応できる範囲で家庭と連絡を取り合いながら対応します。	
	④⑮	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している。	3		法人内各事業所等のヒヤリハットの事例を基に、事業所内で注意すべき点や気付いたこと等職員間で意見を出し、利用児の対応・支援に繋げるようにしています。	
	④⑯	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている。	3		法人内各事業所等の研修報告及び施設内外を中心に研修に参加し、得た知識は現場で活かすようにしています。また虐待防止チェックリストを基に毎月のケア会議で虐待の有無を確認しています。	
④⑰	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している。	3		身体拘束を行わず、保育士が安全面を配慮し対応していますが、その時の利用児の状況や周りの環境により、体や手など持って支える際は、法人の身体拘束のマニュアルに基づいて保護者様に説明し、納得した上で対応の仕方について同意して頂き、同意書に署名・捺印して頂きます。また、その時の様子を記録し保護者様にもその都度様子をお知らせします。今年度は該当者はいませんでした。また職員全員で身体拘束マニュアルについて再確認しました。		

○ この「事業所における自己評価結果(公表)は、事業所全体で行った自己評価です。